

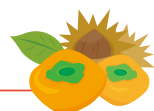


日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

愛知県支部

No. 160

2024. 秋



日赤あいち

広報誌

▶ CLOSE UP

子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり
「夏休み みんなの空き地プロジェクト」
～愛知県支部が取り組む子ども・子育て支援事業～

▶ TOPICS

- ▶ 青少年赤十字夏の取り組み
- ▶ Information

CLOSE UP

子どもたちが安心して
過ごせる居場所づくり
「夏休み みんなの
空き地プロジェクト」
～愛知県支部が取り組む子ども・
子育て支援事業～

Information インフォメーション

「いざという時のために 今日からはじめる災害時の備え」 糖尿病サポートチーム

11月20日(水)に八事日赤健康教室開催します

当院では、世界糖尿病デーがある11月に糖尿病サポートチームによる市民公開講座を例年開催しています。今年度は糖尿病と災害をテーマに医師・看護師・薬剤師の目線から災害時に役立つ情報を提供させていただきます。

糖尿病療養の中で、災害時の対応への不安を抱えられている患者様やそのご家族は多くいらっしゃいます。備えあれば憂いなし、の考えのもと、本講座が正しく疾患や対処法を理解する一助になれば幸いです。

市民公開講座
八事日赤健康教室

いざという時のために
今日からはじめる災害時の備え

日時

2024年11月20日(水)
14:00～15:00

会場

第3病棟1階 研修ホール

講師

医師(糖尿病専門医)
榎谷 昌佳
看護師(糖尿病看護認定看護師)
秋原 寛美

世界糖尿病デー

11月14日は
世界糖尿病デーです

主催

日本赤十字社愛知県支部、
日本赤十字社
愛知医療センター
名古屋第二病院

協賛

日本赤十字社
愛知医療センター
名古屋第二病院
地域医療推進室
TEL:052-832-1121(代表)

活動資金 ご協力ありがとうございます

日本赤十字社愛知県支部へ活動資金として多額のご寄付をいただいた法人様

- ▶ エヌショーケース株式会社 様
- ▶ ホッコー株式会社 様
- ▶ 株式会社ジョイフル設備 様
- ▶ 株式会社ニシ 様
- ▶ 株式会社畑中建築事務所 様
- ▶ 株式会社パロマ 様
- ▶ 株式会社バンショー 様
- ▶ 一般財団法人坂文種報徳会 様
- ▶ 株式会社フェニックス 様

赤十字事業は、皆さまからの活動資金のご協力によって支えられています。

郵便振替口座／00860-1-732 日本赤十字社愛知県支部
郵便局備え付けの振込取扱票でお手続きください。

日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

日赤あいち

〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50 TEL 052-971-1591 (代表)
発行元／日本赤十字社愛知県支部 発行日／令和 6 年 10 月 1 日

日本赤十字豊田看護大学 入試情報

赤十字の理念のもと、一緒に看護師を目指そう

日本赤十字豊田看護大学は80余年の歴史を持つ中部圏唯一の赤十字の看護大学です。医療・保健・福祉から災害救護や国際活動まであらゆる現場で活躍できる看護師をめざせるよう、災害看護や国際交流、実習に力を入れたプログラムを用意しています。看護教育に特化した充実した学修環境の中で、看護の知識と技術をしっかりと身につけることができます。

今年度の推薦選抜の出願が11月1日から始まります！学生全員が同じ夢を持ちモチベーション高く学び合える本学で、一緒に看護師を目指しませんか？



▶入試情報はこちら

2025年度入試情報(2025年4月入学)

注：入試科目や出願期間等、詳細は本学ホームページをご覧ください。

試験名	試験日	合格発表日
赤十字特別推薦選抜	11/30(土)	12/6(金)
高等学校長推薦選抜		
社会人特別選抜		
大学独自選抜特待生プラス	1/25(土)	1/31(金)
大学入学共通テスト利用選抜(前期A・B)	個別試験なし	2/7(金)
大学入学共通テスト利用選抜(後期)	3/4(火)	3/7(金)
大学入学共通テスト利用選抜(赤十字6看護大学連携併願選抜)	個別試験なし	3/3(月)

PRESENT

ハートラちゃん
うでビタバルーン

ハートラちゃん
うでビタバルーンを
抽選でプレゼント

5
名様



Mail : aichi-koho@aichi.jrc.or.jp

Fax : 052-971-1590

郵 送 : 〒461-8561 名古屋市東区白壁 1-50
日本赤十字社愛知県支部
「日赤あいちプレゼント」係

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③電話番号
④年齢 ⑤「日赤あいち」の入手先
⑥ご意見・ご感想など

締切／令和 6 年 12 月 31 日必着

活動の詳細や
最新情報は
ウェブサイトか
SNSへ

日赤あいち

検索

https://www.jrc.or.jp/chapter/aichi/

Instagram



青少年赤十字 夏の取り組み

子ども新聞プロジェクト

2011年3月に発生した東日本大震災をきっかけとして朝日新聞社と協働で開始した本プロジェクトは、2012年から始まり今年で11回目になります。「過去の震災から学んだ教訓を防災・復興につなげよう」を目的に、子どもたちが取材をした後に実際の新聞を作り、加盟小学校と在籍する全ての児童へ配布することで防災教育の教材として活用されています。

今年度は愛知・岐阜県の小学6年生が子ども記者として、関西大学の奥村与志弘教授の指導のもと、東日本大震災の被災地とオンラインで繋ぎ、現地の新聞社や観光協会の取り組みについて取材をしました。また、大阪府・兵庫県内にある防災・減災に関する施設や災害時だけでなく日常でも使用できるフェーズフリーの製品の開発に力をいれている企業を取材して新聞記事を作成しました。



参加者の声

災害が起きると、被災状況によっては住み慣れた家を離れ、当たり前にあったものが手に入らなくなる。生活が一変してしまう怖さを感じた。非常事態だからこそ、地域の人だけでなく、お互いに協力して助け合うことの必要性もあると思った。

国際交流

青少年赤十字の実践目標の一つ「国際理解・親善」に基づき、平成19年からモンゴル赤十字社メンバーや指導者と交流を行うことで、赤十字の諸活動及び青少年赤十字事業についての理解を深め、国際親善と青少年赤十字活動の推進を図ります。

本事業では日本メンバーの派遣とモンゴルメンバーの受け入れを隔年で行っています。今年度は7月30日～8月4日にかけて愛知・岐阜県の中高生11名、指導者及び日赤職員6名の総勢17名がモンゴル国を訪問し、キャンプやホームステイで寝食を共にするなど、現地の青少年赤十字メンバーとの交流を深めました。



参加者の声

日本にいてだけでは気付かない異なる視点をもつことができると思い、今回の海外派遣を希望しました。海外派遣でたくさんの興味深い経験をしました。学んだことはモンゴルの文化と伝統です。例えば、多種多様なチーズやヨーグルトなどの乳製品を味わったり、デルという伝統衣装を見たりしました。中でも印象に残っていることはゲルに泊まったことです。薪ストーブがあり、モンゴルの厳しい冬を乗り越えるための工夫がありました。ゲルは、すべて南を向いて立っています。また、日本同様に敷居を踏んではいけません。モンゴルの伝統を知ると、日本との違いやモンゴル独自の考え方を知ることができて興味深かったです。

相手のことを知る楽しさと重要性に気付くとともに、国際交流において重要な要素だと思いました。

水の事故から身を守るために

水に触れる機会が増える夏休み。「事故を防ぐ知識を持って、楽しく安全に夏休みの思い出をつくってほしい」そんな思いを込めて、今年も県内各地で水の事故を防ぐための水上安全法短期講習を開催しました。

6月1日(土)サンフロッグ春日井(春日井市温水プール)との共催で、着衣状態で水に落ちてしまった時、救助を待つまでの方法を学ぶ着衣泳講習を実施しました。

また、7月30日(火)吉良ワイキビーチ(西尾市)と7月31日(水)常滑りんくうビーチ(常滑市)では、水の事故予防を親子で学ぶ「赤十字親子レスキュー」を開催し、いざという時に自分の身を守る方法を海の中で体験しながら学んでいただきました。

愛知県支部はこれからも、みなさんの安全と安心につながる講習普及に取り組んでいきます。

日本赤十字社愛知県支部×知多市×愛知大学
多文化共生社会実現に向けた連携

知多市でも外国にルーツのある多くの子どもたちが公立学校に通っています。

7月23日(火)知多市立つつじが丘小学校にて、市内の教職員を対象に愛知大学国際コミュニケーション学部の高村めぐみ教授による教育研修が行われました。

今回の研修は、日本赤十字社愛知県支部と地域活性化包括連携協定を締結した知多市との連携事業の一つとして愛知大学に協力をお願いし実施したものです。

高村教授から外国人児童生徒の事例を交え、日本人教員・日本人児童生徒・外国人児童生徒の間の互いの想像を超えた認識や解釈のズレが紹介されるとともに、言語ができるとはどういうことか等、外国人児童生徒の受け入れに関する留意点や心がけについて講話を受けました。また、グループワークでは日頃各学校や各クラスで抱えている悩みや課題を共有しながら、全ての児童生徒が安心して過ごせる学校現場を目指すための意見交換が行われました。

多様化する地域課題に
対応していくために

～UR中部支社と包括協定を締結～

愛知県支部と UR 中部支社は、令和6年7月24日、少子高齢化社会の進展など社会環境が大きく変化する中で多様化する地域課題に対応していくため、地域の健康・安全な生活及び地域コミュニティの活性化等に寄与することを目的として、「日本赤十字社愛知県支部と独立行政法人都市再生機構中部支社との連携に関する包括協定」を締結しました。



愛知県支部と UR 中部支社は、これまで子ども・子育ての支援として幼児安全法講習や「夏休み みんなの空き地プロジェクト」を実施してきました。今年9月には、UR 中部支社と地域の方が運営する子育てサロン「Kira☆Kuru」に日本赤十字社愛知医療センター名古屋第一病院の村井佳代管理栄養士を派遣し、食に関する相談会を行いました。参加者から子どもの好き嫌いに関する悩みなど、色々な相談を受ける場面がみられました。



今後このような、より一層連携を深め、地域課題に対し長期的かつ継続的に社会活動を推進し、社会貢献に努めてまいります。



「熱中症アラート」「感染症の流行」「公園や広場の減少」：子どもたちの過ごし方は、今大人になった私たちが子どもだった頃とは変化しています。今回は、子どもたちが自由に安心して過ごせる居場所をつくるため、愛知県支部とUR中部支社がはじめた「子どもの居場所づくり」事業をご紹介します。

昨年度から独立行政法人都市再生機構中部支社（以下、UR中部支社）と協働で実施している「夏休み みんなの空き地プロジェクト」。今年は夏休み期間中に名古屋市中区のUR水草団地と名古屋市中緑区のUR鳴子団地・アーバンラフレ鳴子で、子どもたちがいつでも来られる「空き地」として団地内の集会所を開放しました。

2年目となった今年は、赤十字のユースボランティアに加え、従来から子どもへの支援に取り組んでいる一般社団法人愛知PFS協会や、日本福祉大学社会福祉学部中村准教授のゼミ学生、日本総合住宅生活株式会社にも協力いただき、子どもたちが安心して自由に楽しく過ごせる環境づくりと、思い出をたくさんつくるためのプログラムを考えました。

子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり
「夏休み みんなの空き地プロジェクト」
愛知県支部が取り組む子ども・子育て支援事業

子どもの居場所は
子育て支援にも：

参加した児童の保護者からは、「この暑さで子どもたちは外で友達と遊ぶことも出来ない状況でした。また共働きであることもあり子どもたちだけで留守番をさせざるをえない状況だったので、大変助かりましたし、子どもたちも本当に楽しい日々を過ごしていました。」との感想が寄せられました。

